

令和6年11月1日

羽島市教育委員会
教育長 森 嘉長 様

羽島市新しい時代の学校構想検討委員会
委員長 棚野 勝文

新しい時代に向けた羽島市の学校構想について（答申）

令和4年12月26日付けで諮問のありました新しい時代に向けた羽島市の学校構想について下記のとおり答申します。なお、本検討委員会での検討内容を「報告書」として別冊にまとめましたので併せて提出します。

記

答申

(1) 新しい時代において志を持ち心豊かに学びあうこどもを育む教育について

- ・「体験的な活動」や「他者との協働した探究的な学び」を通じて多様な考え方に触れる教育を行う。
- ・多くの情報や経験の中から、選択・決定を繰り返し行い、こどもたちが自らの可能性を広げる機会を設ける。
- ・多様性や流動性のある豊かな人間関係の中で互いに切磋琢磨できる教育環境づくりをする。
- ・未来を切り拓くための基礎となる「確かな学力の育成」や「体力の向上」を目指す。

(2) 新しい時代に求められる学校教育制度、学校運営、学校配置等について

- ・学校教育を取り巻く環境の変化を受け止め、羽島市の目指す教育の姿を具現するため、組織的・計画的に教育制度を整える。
- ・自然や歴史、暮らし等から生まれる「よさ」や「強み」を活かした学校運営を行う。
- ・誰もが安全・安心に過ごし、自らの願いを実現する機能を備えた学校配置・施設等が必要である。

付帯事項

- ・教育を受ける主体者であるこどもたちから、今後の学校構想等について意見を聞く機会を設けること。
- ・児童生徒数の減少や学校施設の状況を踏まえ、今後の教育環境のあり方を検討する際は、よりよい教育効果が得られるよう学校・家庭・地域と協議したうえで進めること。
- ・コミュニティ・スクールの取り組みの充実に努め、学校運営協議会が学校運営により積極的に参画できるようにすること。

「新しい時代に向けた羽島市の学校構想」についての報告書

～次代の羽島を担う心豊かなこどもの育成～

令和6年11月

羽島市新しい時代の学校構想検討委員会

1 審議経過

本委員会は、諮問を受けて審議するにあたり、まず、次のことを各委員が確認した。

- 多様化する社会の中で、教育のあり方を発展・進化させるチャンスと捉え、審議を進める。
- 次代の羽島を担う心豊かなこどもを育成するために本市の「強み」や特色ある教育を活かし、こどもたちが夢や希望をもてる、やりたいことができる教育を目指す。
- 地域の教育力を最大限に活用する。

本委員会は、「次代の羽島を担う心豊かなこどもの育成」のもと新しい時代における学校のあり方を検討しつつ、9回にわたり審議を行った。その審議において喫緊の課題と考えられる「休日文化部活動の地域移行」や「不登校児童生徒への対応」については、優先的に審議した。

2 審議結果

(1) 新しい時代において志を持ち心豊かに学びあうこどもを育む教育について

社会環境がめまぐるしく変化し、多様な価値観が存在する新しい時代の中で大切にしたい学校教育のあり方を、次のように整理した。

- 「体験的な活動」や「他者との協働した探究的な学び」を通じて多様な考え方に触れる教育を行う
 - ・こどもたちが多様な他者と協働できる活動を推進するため、体験的な活動やカリキュラム・マネジメントにより探究的な活動の充実を図る。
 - ・こどもたちが自らの課題を主体的に解決していくため、家庭や地域と連携を図る。
 - ・グローバル化に適応するため、英語教育や異文化理解、多文化共生における取組を推進する。
- 多くの情報や経験の中から、選択・決定を繰り返し行い、こどもたちが自らの可能性を広げる機会を設ける
 - ・こどもたちが夢や目標をもつことができるよう発達段階に合わせた適切なキャリア教育を行う。
 - ・情報の収集・選択・活用する力を育成するため、ICT教育のさらなる充実を図る。
 - ・こどもたちの多様なニーズに応えるため、休日の部活動を社会教育や生涯学習に

位置付け、全市的な地域移行を推進する。

○ **多様性や流動性のある豊かな人間関係の中で互いに切磋琢磨できる教育環境づくりをする**

- ・他の学校や地域等、多くの人と関わる中で学べるよう、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進やスクールバス等の活用について検討を進める。
- ・「不登校を問題行動ととらえない」という前提のもとに、一人ひとりに応じた居場所を提供するとともに、支援の充実を図る。

○ **未来を切り拓くための基礎となる「確かな学力の育成」や「体力の向上」を目指す**

- ・学びの質の向上を図るため、目的に応じてリアルとデジタルを併用した「個別最適な学び」や「協働的な学び」を推進する。
- ・教科の本質に迫り、生活へと広がる学びを創造するために小学校教科担任制や小中一貫教育の充実を図る。
- ・心と体を一体として捉え、運動に親しむ機会をより多く設け、心身の健康を育むことを通じて児童生徒の体力の向上を図る。

(2) **新しい時代に求められる学校教育制度、学校運営、学校配置等について**

(1)における教育を具現するために大切にしたい学校教育制度、学校運営、学校配置等を、次のように整理した。

○ **学校教育を取り巻く環境の変化を受け止め、羽島市の目指す教育の姿を具現するため、組織的・計画的に教育制度を整える**

- ・こどもたちの学びのニーズに応じることができるよう義務教育学校、小中一貫校、学びの多様化学校、学校選択制等、柔軟な教育制度の設計を模索する。
- ・市全体で共通して学ぶ内容を明確にし、平等・公平な学びを保障するとともに、学校区ごとに地域の特色を活かした学びを大切にする。

○ **自然や歴史、暮らし等から生まれる「よさ」や「強み」を活かした学校運営を行う**

- ・身近な地域での学びが生活につながるとともに、社会に広がることを重視した学校運営を行う。

- ・ふるさと教育の充実に向け、地域のネットワークを活かした教育資源（ひと・もの・こと）を積極的に活用する。
- ・教育課程の編成においては、教職員が自らの専門性を活かし、働きがいをもって教育活動に取り組めるよう配慮するとともに勤務環境の整備を行う。
- ・学校運営に活かす地域の特色を考えるにあたっては、学校運営協議会の意見を尊重する。

○ **誰もが安全・安心に過ごし、自らの願いを実現する機能を備えた学校配置・施設等が必要である**

- ・AI 技術の進歩等に対応するとともに、ユニバーサルデザインを踏まえた学校施設となるよう配慮する。
- ・児童生徒数の推移や学校施設の経過年数を踏まえ、こどもたちの豊かな学びを育むため、必要に応じて学校の適正規模・適正配置について検討を進める。
- ・教育施設の複合化等、学校が地域をつなぐ役割の一翼を担うことに配慮する。

上記(1)(2)により、こどもたち一人ひとりの状況に応じた多様な学びが選択できる教育環境を整えることが、本市の未来を創り出すことにつながると考える。

なお、今後、検討した内容については、教育振興基本計画に、その趣旨を反映させていくことが望ましい。

1 新しい時代の学校構想検討委員会開催状況

日 程	議題等
第1回 令和4年12月26日	(1)委員会スケジュール(案)について (2)羽島市の学校教育の現状について
第2回 令和5年2月13日	(1)休日文化部活動の地域移行について (2)不登校児童生徒の対応について
第3回 令和5年5月30日	
第4回 令和5年8月28日	(1)市内学校の教育実践について (2)学校教育の新たな方向性・理念について (3)羽島市の新たな学校像について(教育制度、学校運営、学校配置等)
第5回 令和5年11月6日	
第6回 令和6年2月13日	
第7回 令和6年5月21日	
第8回 令和6年7月23日	(1)審議内容の整理について (2)答申(案)について
第9回 令和6年10月1日	
第10回 令和6年11月1日	(1)諮問事項の答申について

2 羽島市新しい時代の学校構想検討委員会名簿

(委嘱期間：令和4年12月1日～令和7年3月31日)

該当委員の説明	氏名	役職等
1号委員 教育に関する学識 経験を有する者	棚野 勝文	岐阜大学大学院 教育学研究科教授
1号委員 教育に関する学識 経験を有する者	松本 和久	岐阜聖徳学園大学 教育学部教授
2号委員 学校教育に関わる者	中村 純子 (R4) 児山 章浩 (R5～6)	桑原学園校長
2号委員 学校教育に関わる者	石原 美和	中島中学校教諭 (R6)
2号委員 学校教育に関わる者	廣瀬 智子	羽島中学校事務職員 (R6)
3号委員 自治組織を代表する者	小森 博昭	羽島市自治会委員長
4号委員 中学校区を代表する者	長島 秀賢	羽島中学校運営協議会委員
4号委員 中学校区を代表する者	松下 友幸	竹鼻中学校運営協議会委員
4号委員 中学校区を代表する者	田中 元雄 (R4～5) 後藤 昌美 (R6)	中央中学校運営協議会委員
4号委員 中学校区を代表する者	浅野 秀子	中島中学校運営協議会委員
4号委員 中学校区を代表する者	新井 勝	桑原学園運営協議会委員
5号委員 羽島市PTA連合会 を代表する者	柴田 伸介 (R4) 長谷 一展 (R5) 鈴木 雅恵 (R6)	羽島市PTA連合会会長
6号委員 公募による市民	木下 慎一朗	公募市民
6号委員 公募による市民	太田 和義	公募市民
7号委員 教育委員会が適当 と認める者	長岡 裕子	主任児童委員